

日常のお手入れ

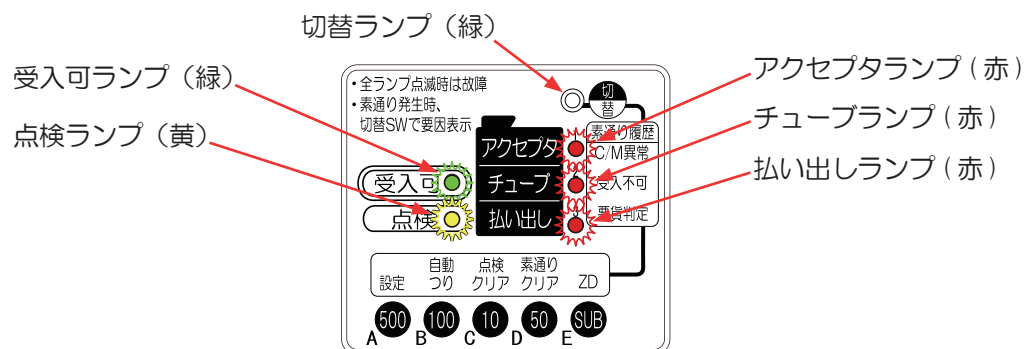
コインメックは、硬貨、メダル、ほこり、水ぬれ、異物の付着などで汚れてきます。汚れがひどくなると、硬貨の選別、払い出し性能が維持できなくなります。性能を長く維持するために、1 ～ 3 ヶ月に 1 度定期的に清掃してください。（清掃期間は、取り付けた機器側の構造、設置場所により異なります。）

⚠ 注意

- 日常のお手入れが終わりましたら、必ず動作テストを行い、異常がないことを確認してください。確認をしないと異常を発見できず、誤動作や故障の原因となります。
- 本体についた汚れなどを落とす場合は、柔らかい布で乾拭きしてください。
- 乾拭きで汚れが取りにくい時は、柔らかい布に無水エタノールを含ませてください。
- 酸性またはアルカリ性の洗剤、ベンジン、シンナー系の溶剤、化学ぞうきんなどは使用しないでください。変形や変色、故障の原因になります。

(1) インベントリパネルの確認

インベントリパネルのランプを確認することにより、コインメックの状態が確認できます。



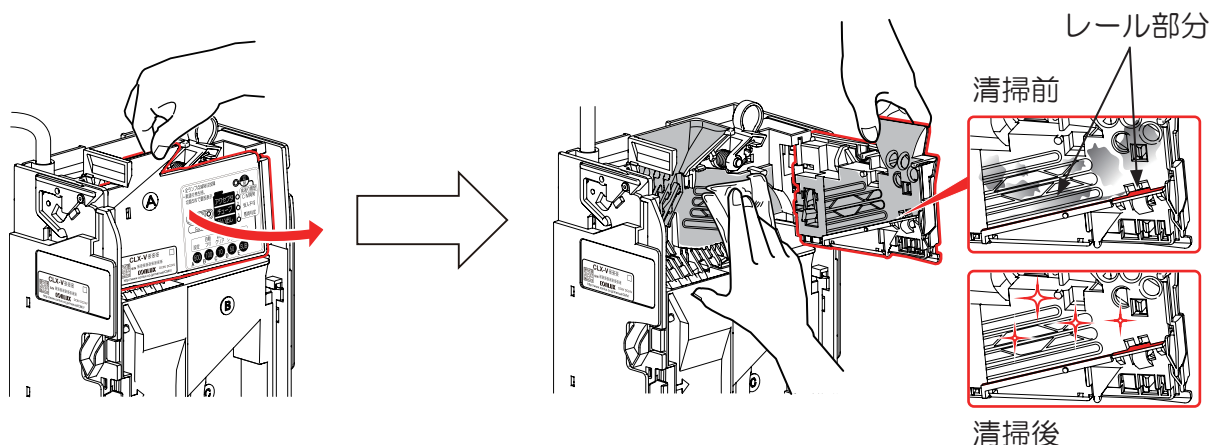
【注意事項】

説明用に切替ランプ（緑）以外の全ランプが点灯しています。

(2) 硬貨選別機（アクセプタ）の清掃

【選別センサの清掃】

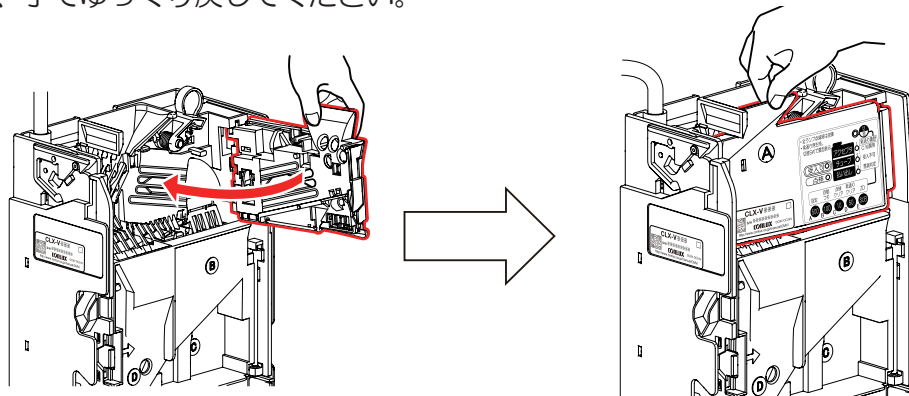
- ① 硬貨選別機(アクセプタ)のゲートを手で開きながら、選別センサ（グレー部分）を清掃します。特にレール部分をよく清掃してください。



⚠ 注意

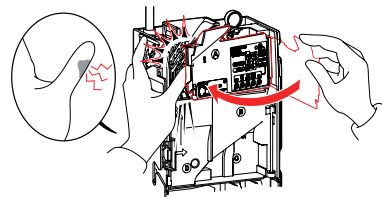
ゲートを開く時、指を挟まないよう十分注意して作業してください。
注意せず作業をすると指を挟みけがをする恐れがあります。

- ② 開いているゲートは、手でゆっくり戻してください。



⚠ 注意

ゲートを強く戻すと、部品の破損等により故障の原因となるばかりでなく、指を挟みけがをする恐れがあります。



- ③ 清掃が終わりましたら、必ず動作テストを行い、異常がないことを確認してください。確認をしないと異常を発見できず、誤動作や故障の原因となります。

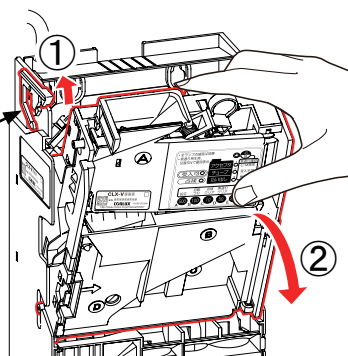
【硬貨通路部の清掃】

⚠ 注意

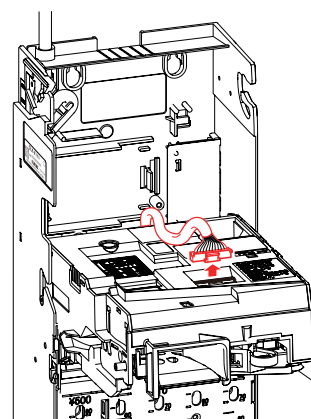
- 必ず機器側の電源が切断されていることを確認してから清掃を行ってください。
電源を切断せずに清掃を行うと、誤動作や故障の原因となります。
- 硬貨選別機（アクセプタ）を持つ時は投入硬貨出口部に触れないでください。
誤動作や故障の原因となります。

- ① アクセプタラッチ（緑）を押し上げ、硬貨選別機（アクセプタ）を手前に倒します。

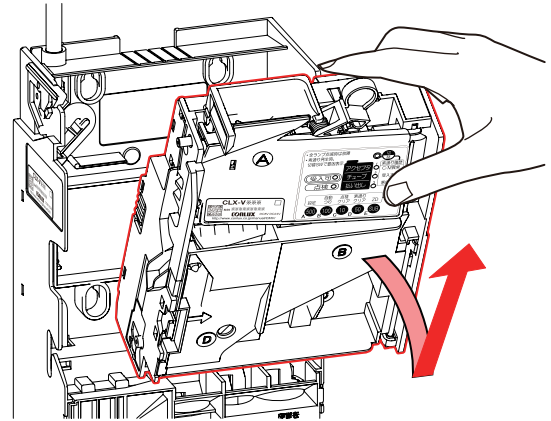
アクセプタラッチ（緑）



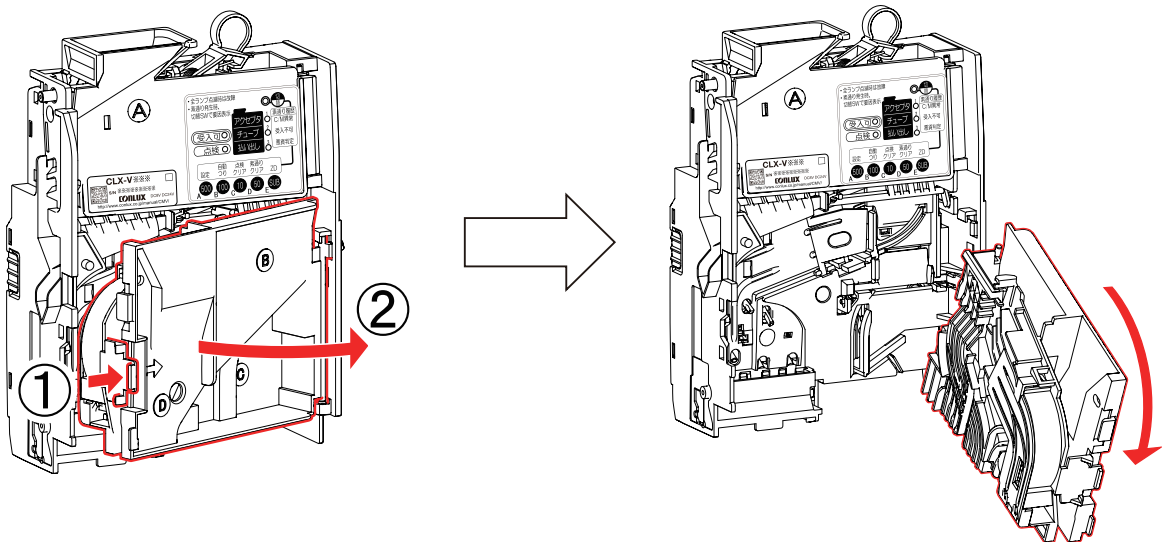
- ② 必ず機器側の電源が切断されていることを確認し、13Pハーネスコネクタのロックを解除して取り外します。



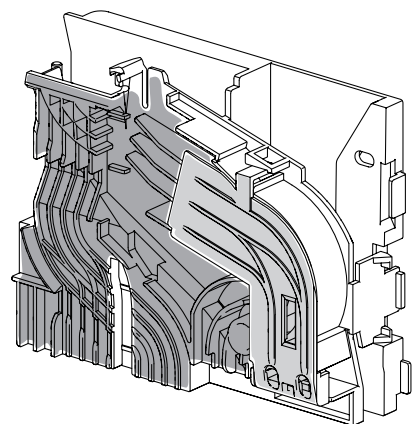
- ③ コインメックから硬貨選別機（アクセプタ）を取り外します。



- ④ ASSY 通路カバーのラッチをはずし、手前に開いて取り外します。



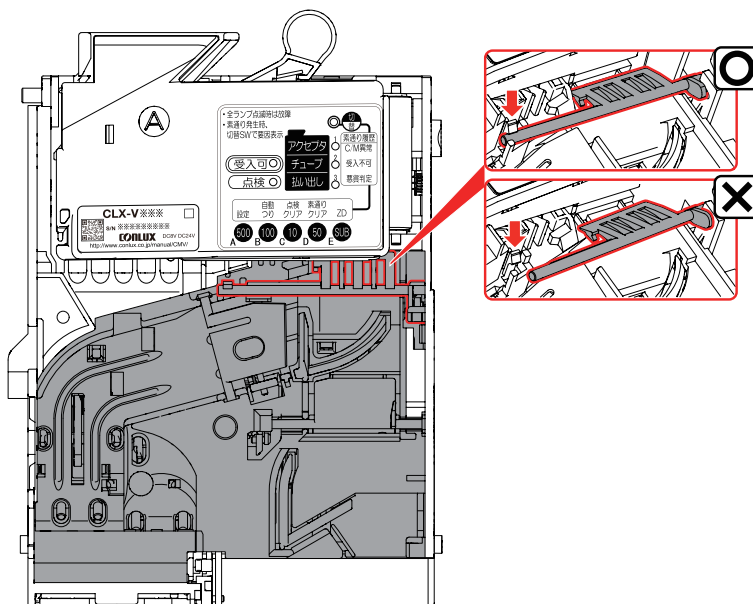
- ⑤ 取り外した ASSY 通路カバーの硬貨通路部（グレー部分）を清掃します。
この時異物や硬貨が詰まっていた場合は取り除いてください。



- ⑥ メインプレートの硬貨通路（グレー部分）を清掃します。この時異物や硬貨が詰まっていた場合は取り除いてください。

⚠ 注意

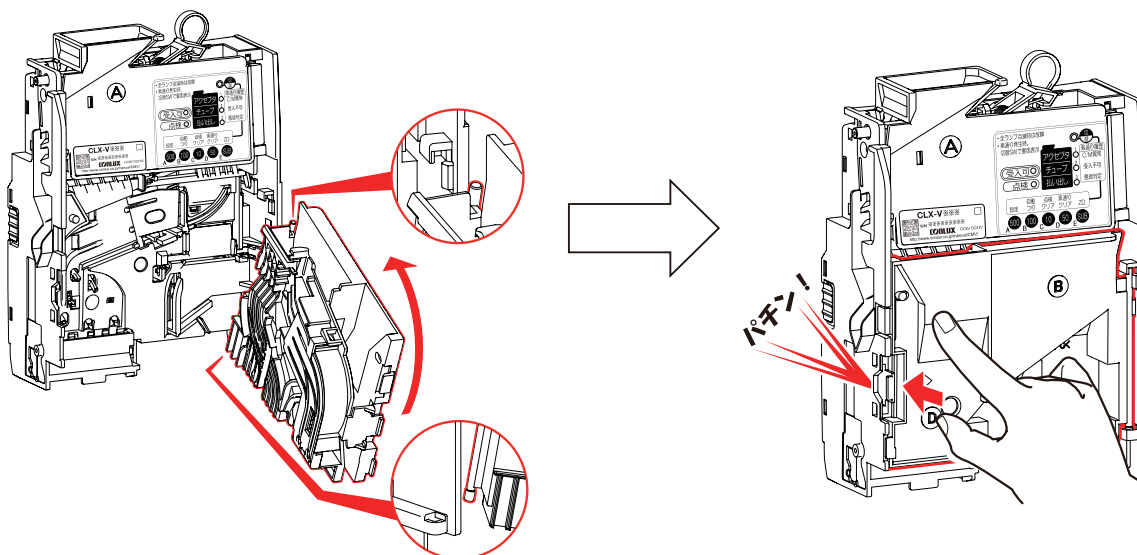
清掃する時に各レバーの外れ、変形しないように、十分注意しながら清掃してください。
各レバーの外れや、変形があると、誤動作や故障の原因となります。



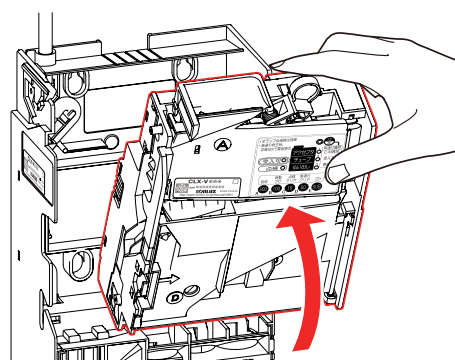
- ⑦ ASSY 通路カバー下側のヒンジ部を先にセットして、次に上側のヒンジ部をセットして、“パチン”と音がするまで硬貨選別機（アクセプタ）に取り付けます。

⚠ 注意

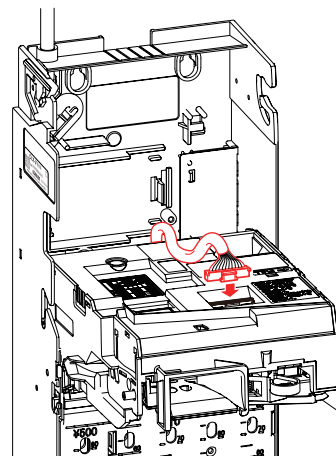
ASSY 通路カバーが正しく取り付けられていないと、誤動作や故障の原因となります。



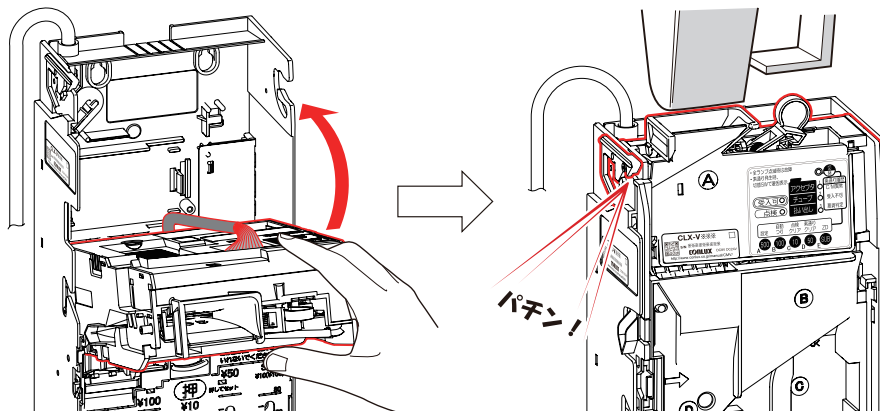
- ⑧ コインメックに硬貨選別機（アクセプタ）を取り付けます。



- ⑨ 必ず機器側の電源が切断されていることを確認し、13P ハーネスコネクタを“カチッ”と音がするまで押し込んで接続します。



- ⑩ 硬貨選別機（アクセプタ）を“パチン”と音がするまでコインメックに取り付けます。



⚠ 注意

硬貨選別機（アクセプタ）を取り付ける時に抵抗を感じる場合は、13P ハーネスが内部で挟まっている可能性がありますので、もう一度やり直してください。

- ⑪ 清掃が終わりましたら必ず動作テストを行い、異常がないことを確認してください。確認をしないと異常を発見できず、誤動作や故障の原因となります。

(3) コインメック本体部の清掃

コインメック本体部を清掃する時、下記の工具が必要となりますので準備してください。

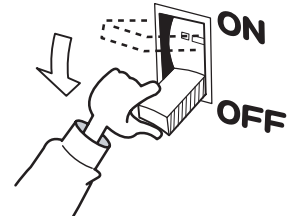
- (+) ドライバー (先端サイズNo. 2)

⚠ 注意

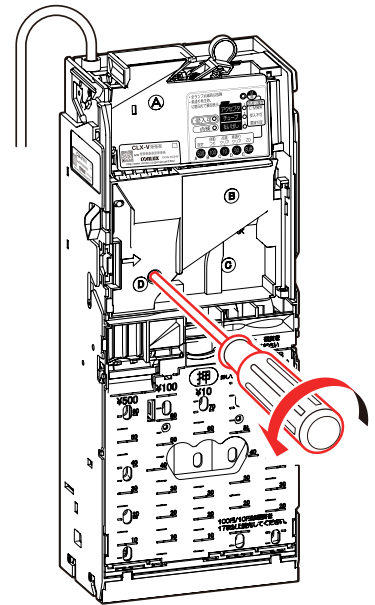
必ず機器側の電源が切断されていることを確認してから清掃を行ってください。

電源を切断せずに清掃を行うと、誤動作や故障の原因となります。

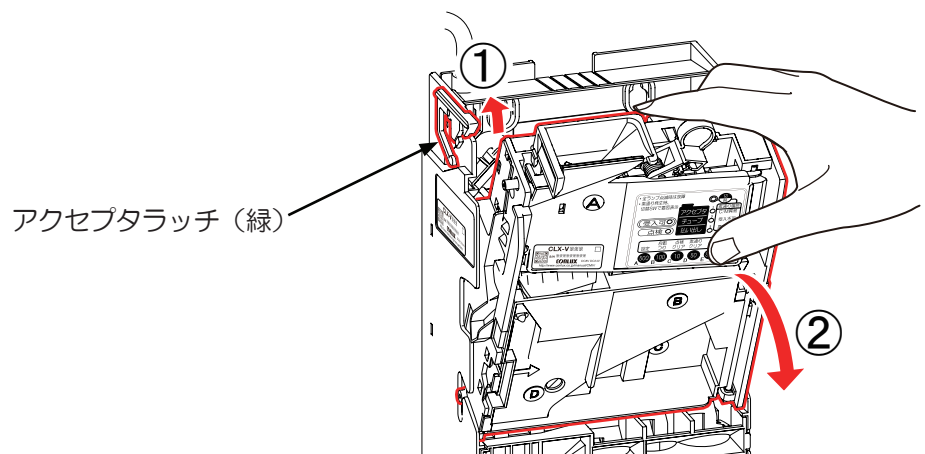
- ① 機器側の電源を切断します。



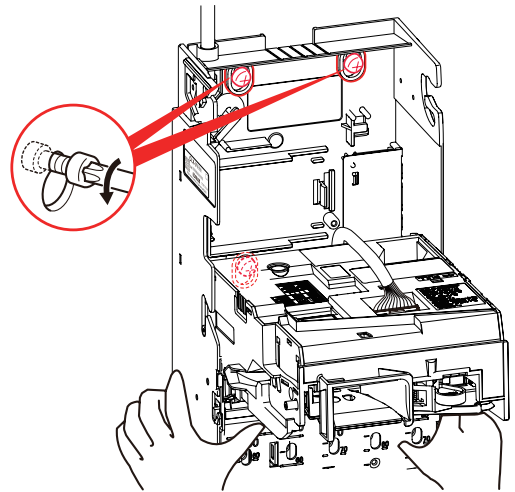
- ② 硬貨選別機 (アクセプタ) の下部左側の穴に、(+) ドライバー (先端サイズNo. 2) を通してビスを緩めます。



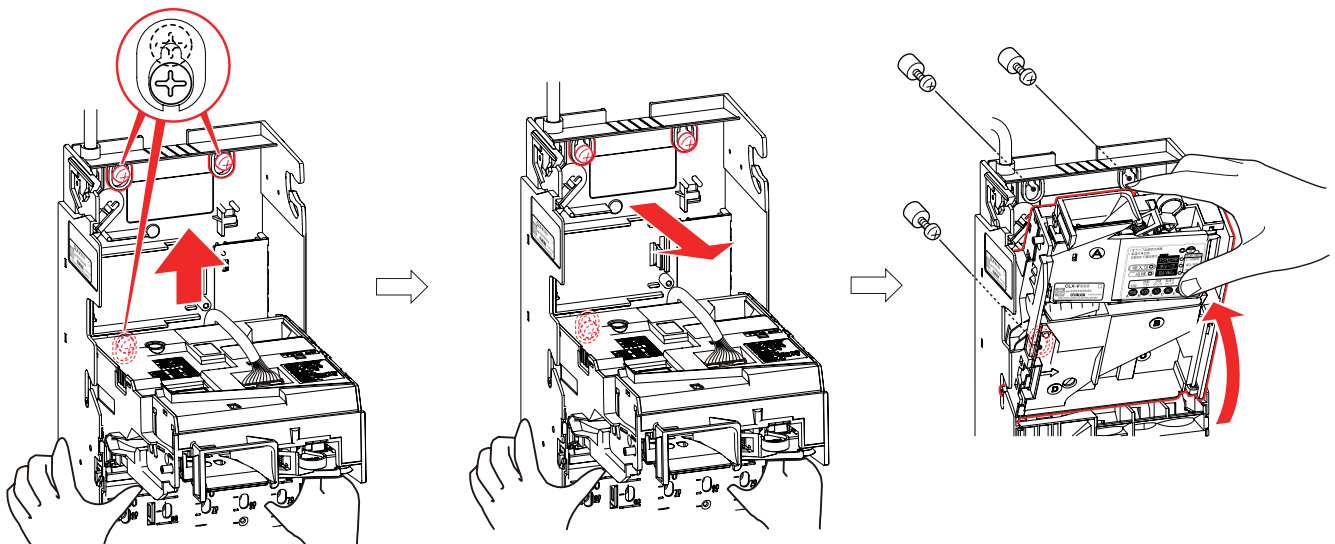
- ③ アクセプタラッチ (緑) を押し上げ、硬貨選別機 (アクセプタ) を手前に倒します。



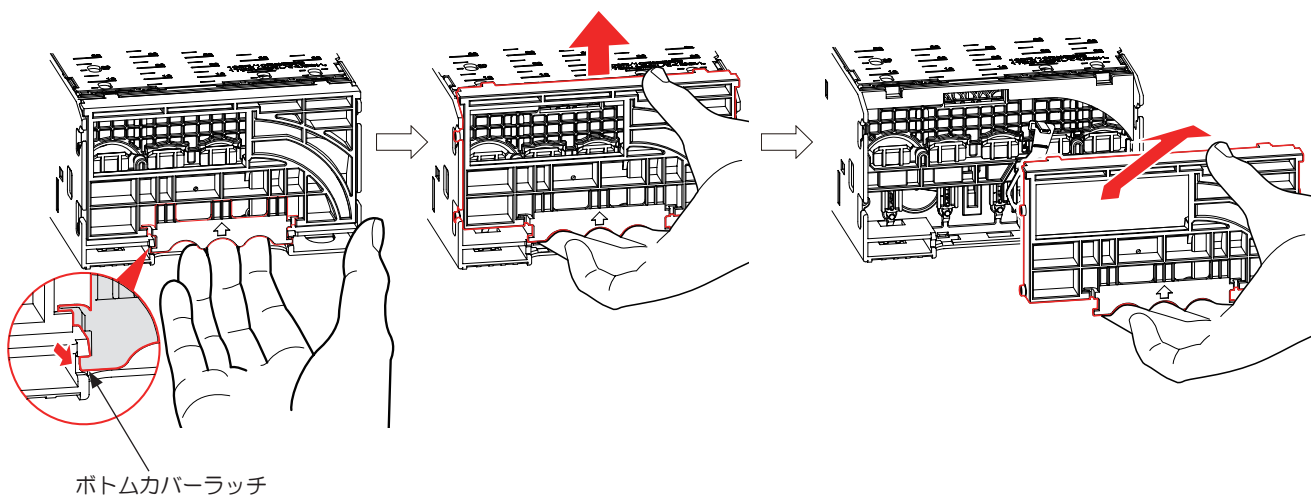
- ④ (+) ドライバー（先端サイズNo.2）を使用して、上部2ヶ所の取り付け穴のビスを緩めます。



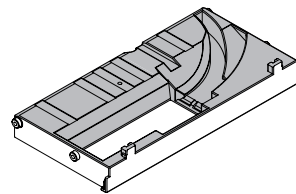
- ⑤ コインメック取り付け穴を機器側の取付け部から外し、コインメックを取り外して、硬貨選別機（アクセプタ）を元に戻します。



- ⑥ ボトムカバーのラッチを外し、カバー全体を上押し上げて取り外します。この時異物や硬貨が詰まっていた場合は取り除いてください。

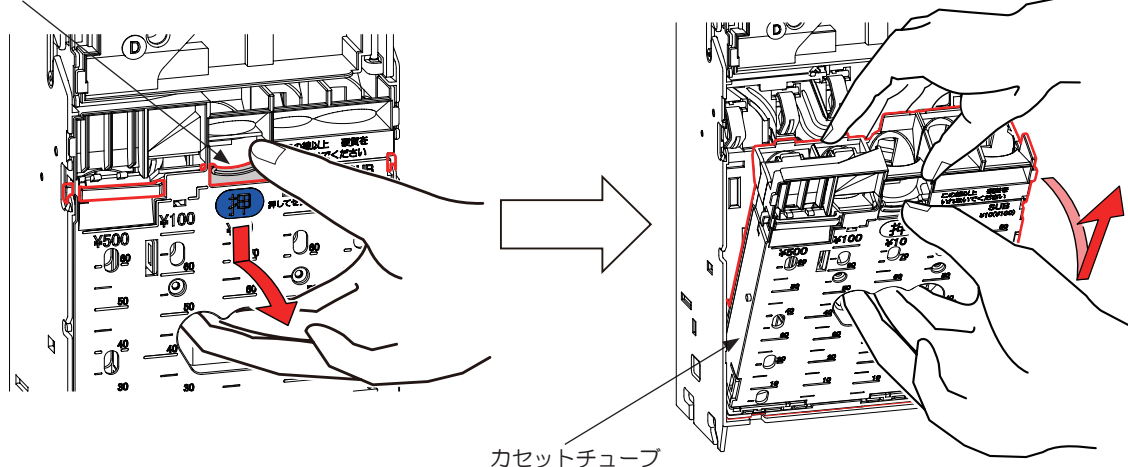


- ⑦ 取り外したボトムカバーのグレー部分を清掃します。



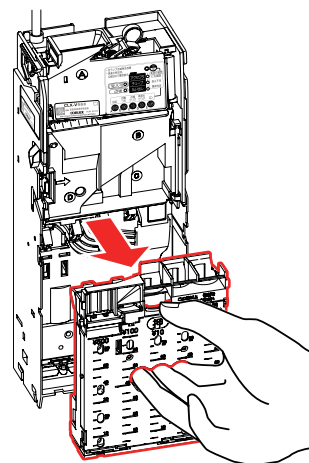
- ⑧ カセットラッチ（緑）を押し下げ、カセットチューブを手前に倒して取り外します。チューブ内に硬貨が入っていると重量がありますので両手で取り外す様にしてください。

カセットラッチ（緑）

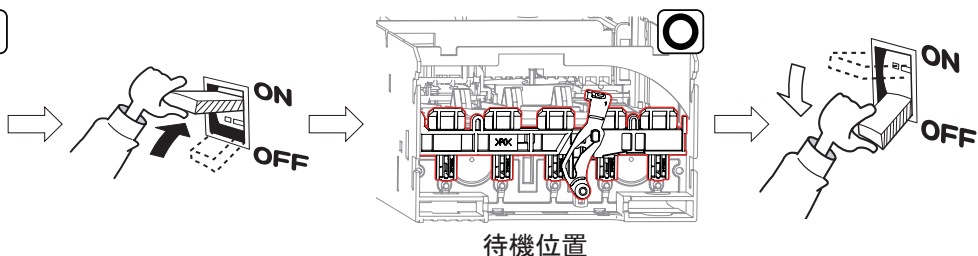
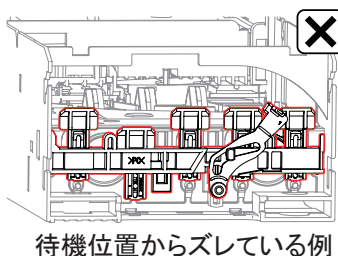


【注意事項】

- ・ 異物や硬貨が詰まってカセットチューブ手前に倒して取り外せないときは、水平に引っ張って取り外します。



- ・ 水平に引っ張ってカセットチューブを取り外した時、ペイアウトリンク ASSY 等部品が待機位置からズレているときがありますので、機器側の電源を投入してペイアウトリンク ASSY 等部品を待機位置に戻してから、機器側の電源を切断してください。

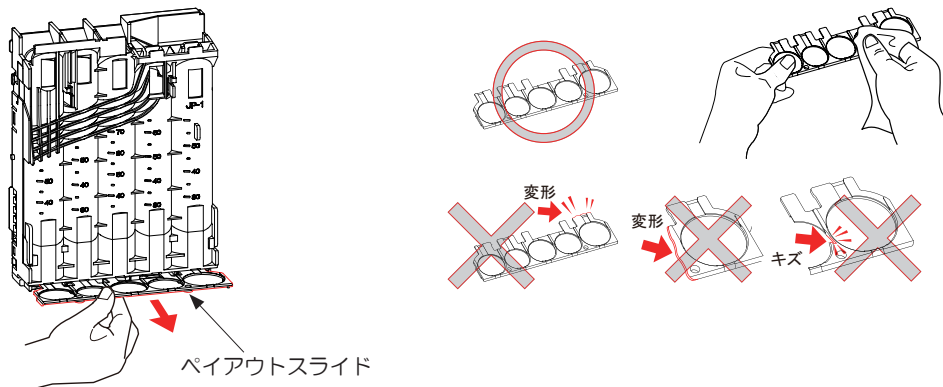


⑨ カセットチューブに収納されている硬貨を回収します。

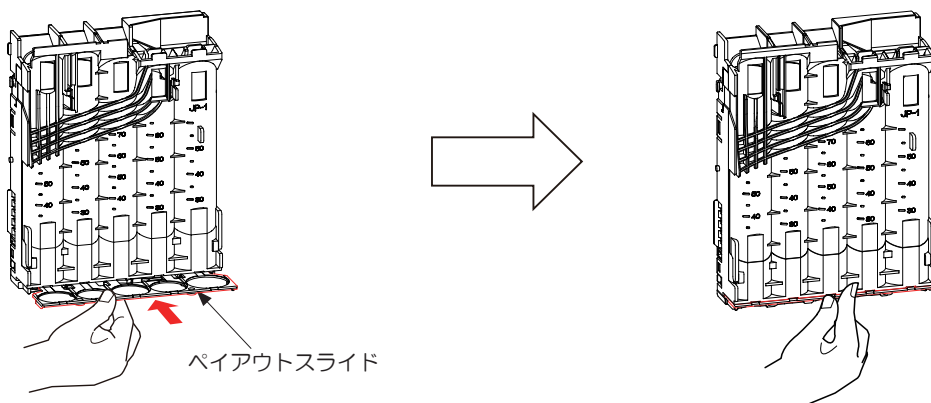
⑩ カセットチューブからパイアウトスライドを取り外して清掃します。

⚠ 注意

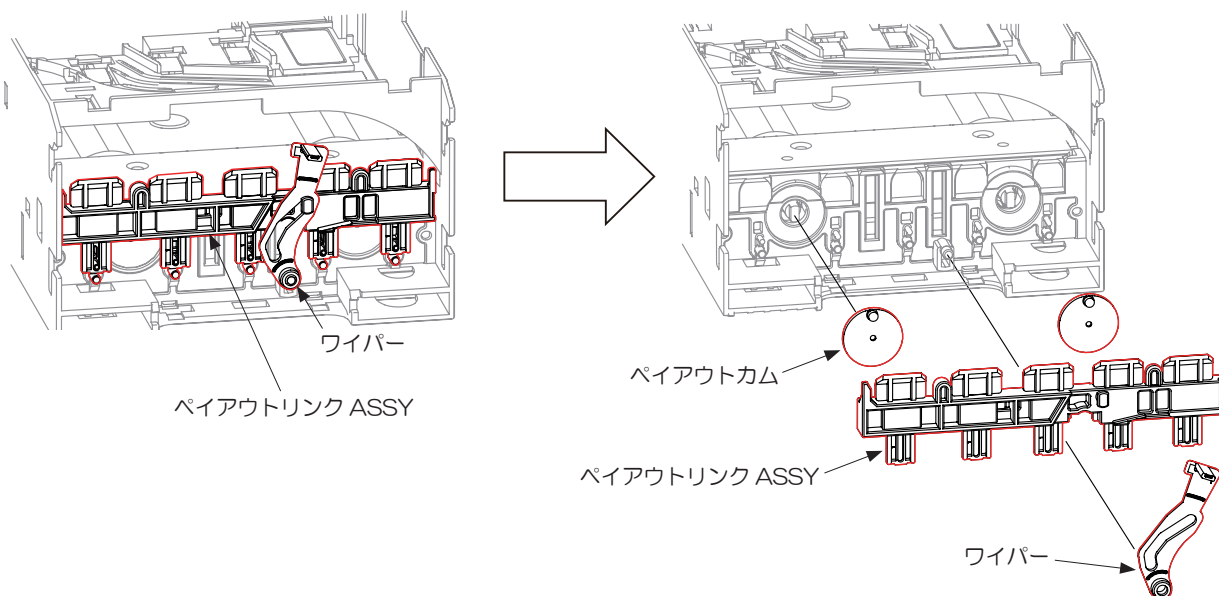
パイアウトスライドに変形、キズがあるときは新しいものに交換してください。
交換しないと誤動作や故障の原因となります。



⑪ パイアウトスライドをカセットチューブに取り付けます。



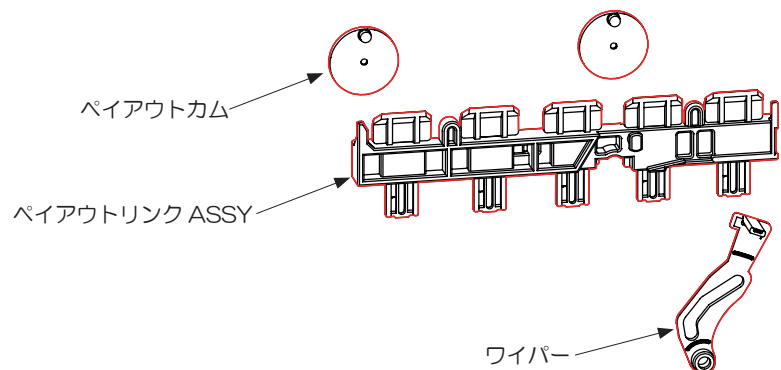
⑫ コインメックからパイアウトリンク ASSY、パイアウトカム、ワイパーを、取り外します。



- ⑬ ペイアウトリンク ASSY、ペイアウトカム、ワイパーを清掃します。

⚠ 注意

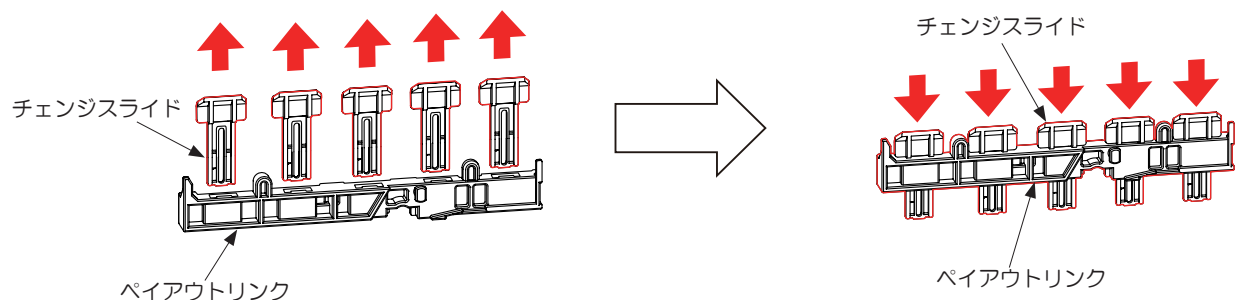
ワイパーに変形、キズがあるときは新しいものに交換してください。交換しないと誤動作や故障の原因となります。



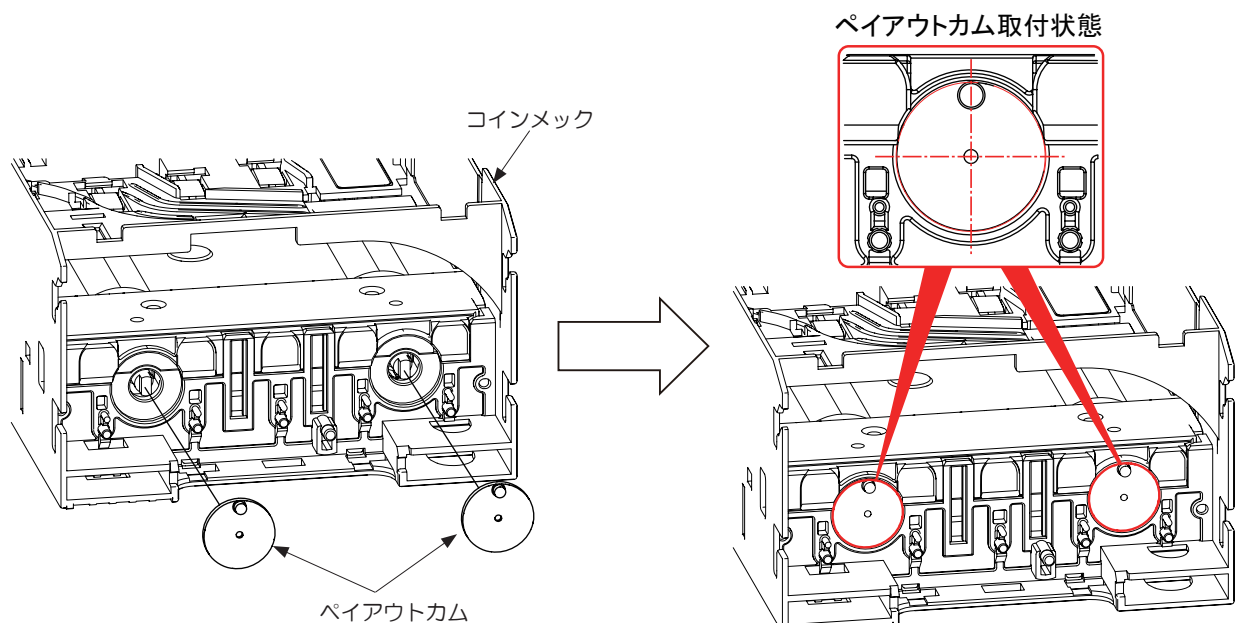
- ⑭ ペイアウトリンク ASSY からチェンジスライドを取り外して清掃します。清掃後チェンジスライドをペイアウトリンク ASSY に組立てます。

⚠ 注意

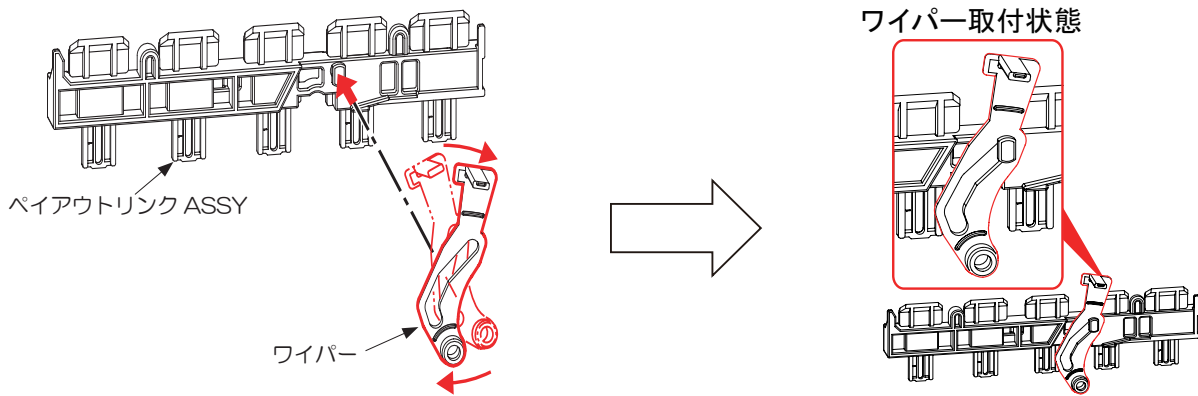
チェンジスライドが正しく取り付けられていないと、誤動作や故障の原因となります。



- ⑮ ペイアウトカムを、コインメックに取り付けます。



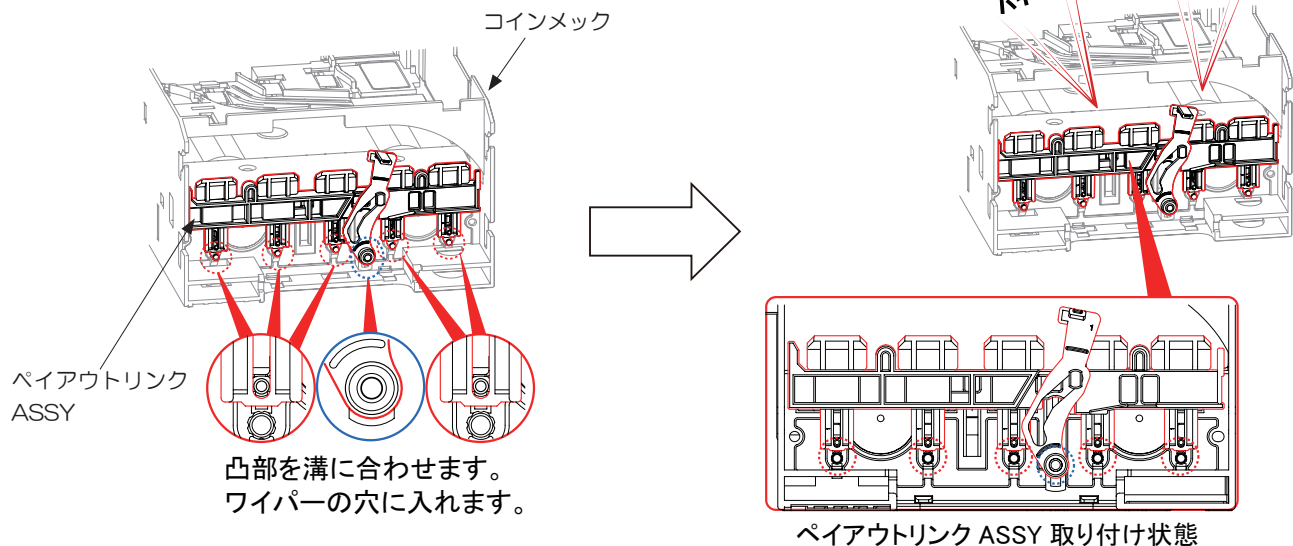
- ⑯ ワイパーをペイアウトリンク ASSYに取り付けます。



- ⑰ ペイアウトリンク ASSY を、コインメックに取り付けます。

⚠ 注意

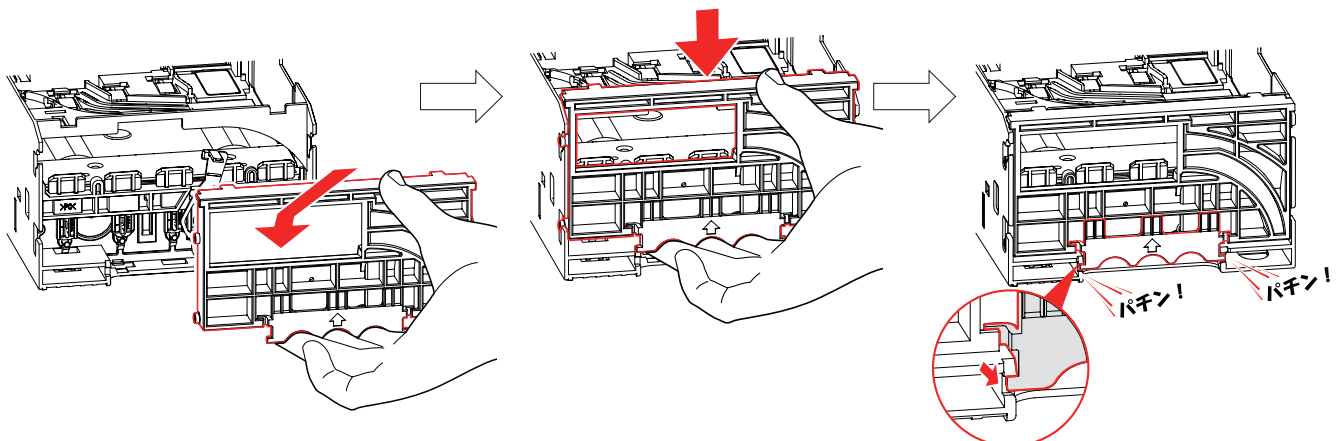
ペイアウトリンク ASSY、ペイアウトカム、ワイパーが正しく取り付けられていないと、誤動作や故障の原因となります。



- ⑱ ボトムカバーをコインメックに“パチン”と音がするまで取り付けます。

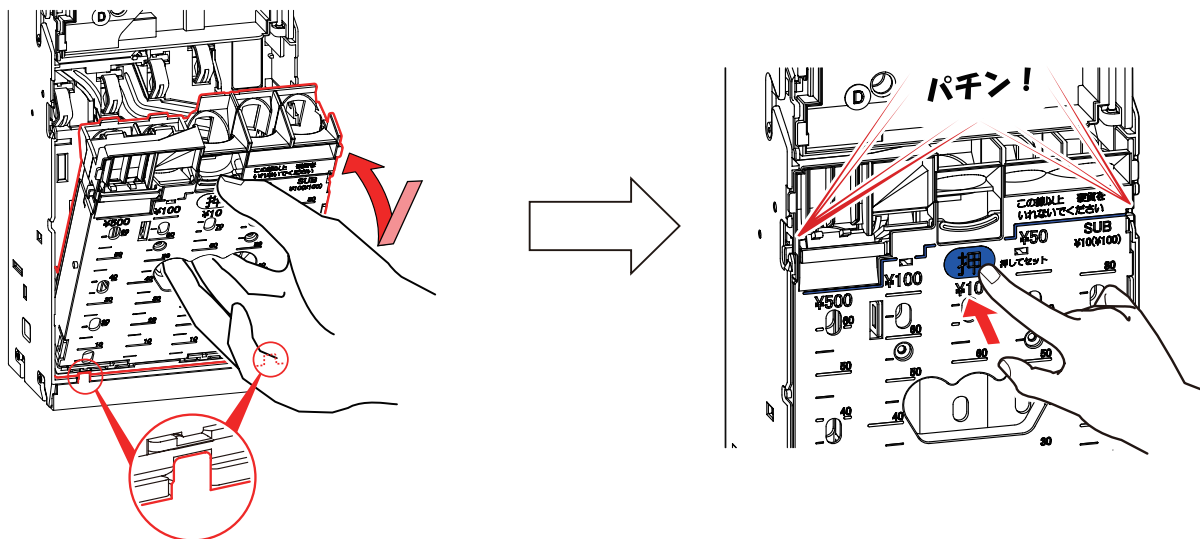
⚠ 注意

ボトムカバーが正しく取り付けられていないと、誤動作や故障の原因となります。



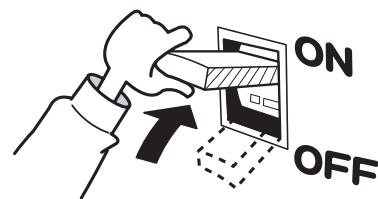
- ⑲ 必要に応じてつり銭硬貨をカセットチューブに入れてください。

- ⑳ カセットチューブ下部の凹部をコインメックの凸部にひっかけて、カセットチューブの「押」の箇所を“パチン”と音がするまで押して取り付けます。



- ㉑ コインメックを機器に取り付けます。

- ㉒ 機器側の電源を投入します。



- ㉓ 必ず動作テストを行い、異常がないことを確認してください。確認をしないと異常を発見できず、誤動作や故障の原因となります。